



日本人のノーベル賞受賞者一覧

ことしのノーベル物理学賞の受賞者に、大気と海洋を結合した物質の循環モデルを提唱し、二酸化炭素濃度の上昇が地球温暖化に影響するという予測モデルを世界に先駆けて発表した、プリンストン大学の上級研究員でアメリカ国籍を取得している真鍋淑郎さん（90）が、ドイツとイタリアの研究者とともに選ばれました。

日本人がノーベル賞を受賞するのはアメリカ国籍を取得した人を含めて28人目で、物理学賞では12人目になります。

2021年10月5日（火）

[ノーベル物理学賞に真鍋淑郎氏 二酸化炭素の温暖化影響を予測 | ノーベル賞2021 | NHKニュース](#)

*** ノーベル賞 日本人受賞者一覧 1949～2021 ***

	受賞年		受賞者氏名		受賞部門	受賞理由
1	1949	昭和24年	湯川秀樹	ゆかわひでき	物理学賞	中間子の存在を理論的に予言
2	1965	昭和40年	朝永辰一郎	ともながしんいちろう	物理学賞	量子電磁力学の発展に貢献
3	1968	昭和43年	川端康成	かわばたやすなり	文学賞	非常に繊細で卓越した叙述表現
4	1973	昭和48年	江崎玲於奈	えざきれおな	物理学賞	トランジスタの個体のみでトンネル効果を実証
5	1974	昭和49年	佐藤栄作	さとうえいさく	平和賞	非核三原則の提唱(核兵器をもたず、つくらず、もちこませず)
6	1981	昭和56年	福井謙一	ふくいけんいち	化学賞	フロンティア軌道理論によって、分子の反応性が軌道の密度・位相に支配されていることを証明
7	1987	昭和58年	利根川進	とねがわすすむ	医学生理学賞	多様な抗体を生成する遺伝的原理の解明
8	1994	平成06年	大江健三郎	おおえけんざぶろう	文学賞	詩的な言語を用いて現実と神話が混交する世界を創造し、窮地にある現代人の姿を、見る者を当惑させるようなビジョンに描いた
9	2000	平成12年	白川英樹	しらかわひでき	化学賞	導電性高分子の発見と発展
10	2001	平成13年	野依良治	のよりょうじ	化学賞	キラル触媒による不斉反応の研究
11	2002	平成14年	小柴昌敏	こしばまさとし	物理学賞	超新星からのニュートリノの検出
12	2002	平成14年	田中耕一	たなかこういち	化学賞	ソフトレーザによる質量分析技術の開発で生体高分子の同定および構造解析を可能にした
13	2008	平成20年	小林誠	こばやしまこと	物理学賞	クォークが自然界に少なくとも三世代以上あることを予言するCP対称性の破れの起源の発見(小林・増川理論)
14	2008	平成20年	下村修	しもむらおさむ	化学賞	緑色蛍光タンパク質(GFP)の発見と開発
15	2008	平成20年	南部陽一郎 国籍はUSA	なんぶよういちろう	物理学賞	素粒子物理学における、自発的対称の破れの発見
16	2008	平成20年	益川敏英	ますかわとしひで	物理学賞	クォークが自然界に少なくとも三世代以上あることを予言する、CP対称性の破れの起源の発見(小林・増川理論)

17	2010	平成22年	鈴木章	すずきあきら	化学賞	パラジウム触媒を用いたクロスカップリングの開発
18	2010	平成22年	根岸英一	ねぎしえいいち	化学賞	パラジウム触媒を用いたクロスカップリングの開発
19	2012	平成24年	山中伸弥	やまなかしんや	医学生理学賞	成熟細胞の初期化を可能にし、様々な細胞に成長できる能力を持つ iPS細胞の作製に成功した。
20	2014	平成26年	赤崎勇	あかさきいさむ	物理学賞	高輝度で省電力の白色光源を可能にした青色ハッコウダイオードの発明
21	2014	平成26年	天野浩	あまのひろし	物理学賞	高輝度で省電力の白色光源を可能にした青色ハッコウダイオードの発明
22	2014	平成26年	中村修二 国籍はUSA	なかむらしゅうじ	物理学賞	高輝度で省電力の白色光源を可能にした青色ハッコウダイオードの発明
23	2015	平成27年	大村智	おおむらさとし	医学生理学賞	寄生虫によっておこる、感染症の治療法の発見
24	2015	平成27年	梶田隆章	かじたたかあき	物理学賞	素粒子のひとつニュートリノに質量があることを観測によって証明
25	2016	平成28年	大隅良典	おおすみよしのり	医学生理学賞	細胞が不要なたんぱく質などを分解する仕組み「オートファージ」の解明
26	2017	平成29年	石黒一雄 国籍は英国	いしぐろかずお	文学賞	著作「日の名残り」において「世界とつながっているという幻想的な感覚にひそむ深淵」をあらわした。国籍はイギリス、厳密には日本人受賞者ではない
27	2017	平成29年	ICAN	核兵器廃絶国際 キャンペーン	平和賞	あらゆる形の核兵器使用がもたらす壊滅的な結果を人々に気付かせ、核兵器の条約上の禁止実現に向けて画期的な取り組みを進め、核兵器禁止条約の成立を推進した。備考;団体受賞*厳密には世界各国の組織が含まれる団体受賞であるが、日本のNGO(ピースボート他)7団体が参加していた
28	2018	平成30年	本庶佑	ほんじょたすく	医学生理学賞	体内で異物を攻撃する免疫反応に対してブレーキをかける役割をするタンパク質「PD-1」の発見。米テキサス大学のジェームズ・アリソン博士と共同受賞
29	2019	令和元年	吉野彰	よしのあきら	化学賞	スマホの電池のリチウムイオン電池の開発研究、旭化成の名誉フェロー。今回の受賞は、テキサス大学オースティン校教授のジョン・グッドイナフ氏、ニューヨーク州立大学ビンガムトン校教授のスタンリー・ウィティンガム氏との共同受賞。
30	2021	令和3年	真鍋淑郎 国籍はUSA	まなべしゅくろう	物理学賞	真鍋氏とドイツのクラウス・ハッセルマン氏(89)は気候変動の物理学モデルで地球温暖化を予測した業績により、物理学賞の2分の1を共同で受賞。残る2分の1はイタリアの理論物理学者、ジョルジオ・パリシ氏(73)が受賞した。

◎物理学賞：12名 ◎化学賞：8名 ◎医学生理学賞：5名 ◎文学賞：3名 ◎平和賞：2名(1名は団体受賞)

	物理学賞	化学賞	医学生理学賞	文学賞	平和賞	
1	湯川秀樹	福井謙一	利根川進	川端康成	佐藤栄作	
2	朝永辰一郎	白川英樹	山中伸弥	大江健三郎	ICAN	
3	江崎玲於奈	野依良治	大村智	石黒一雄 ^{英国}		
4	小柴昌敏	田中耕一	大隅良典			
5	小林誠	下村修	本庶佑			
6	南部陽一郎	鈴木章				
7	益川敏英	根岸英一				
8	赤崎勇	吉野彰				
9	天野浩					
10	中村修二 ^{USA}					
11	梶田隆章					
12	真鍋叔郎 ^{USA}					
13						
14						
	12	8	5	3	2	

神奈川県藤沢市ゆかりの受賞者・・2名

2019年10月9日 藤沢市遠藤(小田急江ノ島線湘南台駅近く)在住で、旭化成名誉フェローの吉野彰氏(71)がノーベル化学賞の受賞者に選ばれた。携帯電話や電気自動車などに広く使われるリチウムイオン電池の開発に加え、地球温暖化など環境対策への貢献が評価された。化学賞受賞は日本人では8人目。藤沢ゆかりでは2010年に受賞した湘南高校出身の根岸英一氏(84)以来である。吉野彰氏は大阪府出身で藤沢に転居したのは40年ほど前との事である。